

新しい公共支援事業構成事業「多様な主体による交流促進事業」
事業企画提案書

平成24年2月28日

神奈川県知事 殿

住 所 東京都港区麻布台 1-1-20 麻布台ユニハウス 401

郵便番号 106-0041

団 体 名 特定非営利活動法人農家のこせがれネットワーク

代表者氏名 代表理事 CEO 宮治 勇輔



多様な主体による交流促進事業について、次のとおり関係書類を添えて応募します。

<p>事業計画の概要</p>	<p>■実施地域【足柄上及び西湘地域】</p> <p>※この事業は広域で展開し、多数の主体の参加が必要となるため、隣接する湘南地域と連携することを前提とし、同じ内容で両地域に対して応募いたします。</p> <p>■活動分野【⑮職業能力の開発又は雇用機会の拡充を支援する活動】</p> <p>地域内で農業問題について個別に活動しているNPO等に対して、「<u>情報収集と情報交換</u>」「<u>人材交流の場の提供</u>」を柱として「<u>地域の農業関係者のネットワークを構築し、運営を行う中間支援団体の組織化を実現</u>」する事業を行います。</p> <p>農業問題については、雇用・生産・販売・流通などの仕組みづくりが最重要課題となっており、これらを解決するためには、量的なハードル（耕作地面積・収穫量・販売量など）をクリアする必要があると、広域的かつ多数の主体の参加が必要です。</p> <p>多数の主体が参加することで、例えば、新規就農者受け入れや、耕作機械購入の負担などを軽減することができ、大規模農業の展開による合理化や、大手流通業界との取引なども有利に進めることが可能となります。</p>
<p>委託料 見積金額</p>	<p>2,559,000円</p> <p>※ 委託料の対象となる経費の見積金額を記入してください。</p>
<p>応募理由</p>	<p>高齢化や後継者不足から、近い将来神奈川県の農業が著しく衰退し、同時に環境も荒れることは明らかなです。この状況を改善するには、個別の活動では、多くの農業者の生活や、農地の保全を行うには限界があります。</p> <p>そのために、問題意識をもって活動している神奈川県内のNPO等の取り組みをネットワーク化して、協働共助による問題解決を行う必要があると考えました。</p>

団体調査

団体名	★	特定非営利活動法人農家のこせがれネットワーク	
連絡責任者★ (日常的に連絡が取れる方の連絡先を記入して下さい。)	氏名	銀鏡 佳 (しろみ けい)	
	住所	〒106-0041 東京都港区麻布台1-1-20 麻布台ユニハウス401	
	電話・ファクス	電話：03-5545-5376	ファクス：03-5545-5376
	e-mail	kshiromi@kosegare.net	
発足年月日	★	2009年8月25日	
団体設立の経緯		代表の宮治勇輔は、2005年に実家の養豚業を継ぎ、2006年9月に株式会社みやじ豚を設立。みやじ豚は順調に推移するも規模拡大をよしとせず、日本の農業の現状に強い危機意識を持ち、最短最速で日本の農業変革を目指す「特定非営利活動法人農家のこせがれネットワーク」を設立。一次産業をかつこよくて・感動があつて・稼げる3K産業にするため、新しい農業標準作りに挑戦する。	
団体の目的 (定款、会則等に記載された目的を記載してください。)		この法人は、日本全国の農業従事者の対して、地域農業応援事業、普及・啓発事業、就農支援事業を行い、農業プロデュースとして農業経営の強化・支援及び農業従事者の増加を図る。また耕作放棄地開墾事業を行い、未利用農地の再利活用を図る事で、農業従事者及び新規就農者の圃場確保を行う。また農業活性に関する証左や研究も積極的に行い、地域への発展に寄与する。それらすべての活動を通じて都会に住んでいる実家が農家の社会人が実家に帰り農業を継げるような体制を整える事で、第一次産業を中心とした地方地域経済の活性による持続可能な社会の実現に寄与することを目的とする。	
会員数		個人会員 65名 ・ 団体会員 5 団体	
役員数		理事6名・監事1名	
主な活動地域		東京	
主な活動内容 (定款、会則等に記載された目的を記載してください。)		(1) 一次産業活性の為の地域農業応援事業 ① 生産者と生活者の新たな販売経路の構築 ② 生産者と飲食店事業者の新たな販売経路の構築 ③ 農林水産物の加工品の開発・販売支援 ④ 農業コンサルタント (2) 一次産業活性の為の普及・啓発事業 ① 直売所、屋外販売の企画及び出店 ② プロモーション活動 ③ 生活者と生産者による交流促進活動 ④ 機関紙、広報誌の発行 ⑤ 農業体験の企画・運営 (3) 一次産業活性の為の就農支援事業 ① 農業従事者及び就農希望者に対するプロデュース活動 ② 就農者への情報提供 ③ 応援資金制度の策定・実施 ④ 新規事業コンテストの企画・運営 (4) 一次産業活性の為の耕作放棄地開墾事業 ① 耕作放棄地の開墾支援 (5) 一次産業に関する研究調査事業 ① 国や都道府県、企業からの研究調査 ② 企画事業や提案 ③ 情報収集事業や、農業の発展を目的とする団体との共同研究、開発 (6) その他目的を達成するために必要な事業	
会報等の発行		<input checked="" type="checkbox"/> タイトル：「農家のこせがれ通信」(メールマガジン) 発行時期：(定期・2回/月 ・ 不定期)	無

ホームページ	有 URL : http://kosegare.net/	無
財政規模 ・前年度決算については、見込み・確定のいずれかに○をしてください。 ・前年度、前々年度については、原則として団体の活動全体にかかる年間の収支予算等を「収入の部」「支出の部」に分けて更に簡単な項目毎に記入してください。	【今年度予算】 (平成 23 年 4 月～平成 24 年 3 月) 45,000 千円 【前年度決算】 (平成 22 年 4 月～平成 23 年 3 月) (確定) [収入] [支出] 会費収入 1,476 千円 事業費 16,062 千円 寄付収入 0 千円 管理運営費 24,416 千円 事業収入 32,142 千円 その他支出 0 千円 その他収入 11,902 千円 計 45,420 千円 計 40,478 千円	
	【前々年度決算】 (平成 21 年 8 月～平成 22 年 3 月) [収入] [支出] 会費収入 444 千円 事業費 4,844 千円 寄付収入 2,282 千円 管理運営費 3,481 千円 事業収入 7,225 千円 その他支出 1 千円 その他収入 2,201 千円 計 12,152 千円 計 8,326 千円	
助成及び委託や行政との協働の主な実績	【2011年度】 (実施中) 日本財団 農家のkosegare帰農支援プラットフォームづくり事業 (こせがれはじめの一步・こせがれ塾の実施・農家/こせがれデータベース構築・地域ネットワーク構築) 7,400千円 雲南市 次世代を担う若い人材育成事業 (幸雲南塾～地域プロデューサー育成講座～の実施) 1,600千円 【2010年度】 日本財団 パートナシップファームのモデル構築事業 (農家の手がりプロジェクトの実施) 11,550千円 江津市 ソーシャル・ビジネス等創業支援モデル構築事業 (ソーシャルビジネスコンテストの実施) 3,053千円 雲南市 交流事業 (BBQイベント・バスツアー・レストランイベントの実施) 893千円 【2009年度】 日本財団 セルフプロデュースイベント事業 (「ライブマルシェナイト」の実施) 1,000千円 雲南市 「食の幸」交流促進事業 (中期滞在プログラム・レストランイベントの実施) 712千円 その他、各種委員・講演の講師など多数	

※営利団体である場合は、★の項目のみ記入し、会社概要等を添付してください。

実施計画書

1 現状認識と課題認識

■現状認識

足柄上及び西湘地域は、酒匂川流域の小平野や、平野を囲む丘陵や扇状地戸に広がる豊かな自然環境や景観があり、この環境に調和しながら農業が営まれてきました。また、歴史的な場所も多く、古くから自然と人が一体となった農業経営が行われてきました。このような営みは県民にとってかけがえのない財産となつて残っています。

しかし、この営みも時代の流れとともに変化し、近年は営農者の高齢化や後継者不足から放棄耕作地が増加しています。一部では埋め立てなどによる問題も生じています。この状況を放置すれば、近い将来神奈川県内の農業が著しく衰退し、同時に環境も荒れることは明らかです。

この状況を改善しようと神奈川県内の各地で様々な取り組みが行われています。生業としての農業、景観や環境保全の場としての農業、レクリエーションの場としての農業など、これらの活動は地域にとって非常に意義深いものですが、個別の活動では、多くの農業者の生活や、農地の保全を行うには限界があります。

そのために、問題意識をもって活動する神奈川県内のNPO等※1)の取り組みをネットワーク化することが重要であると考えます。

■課題認識

私たちは、農業に6つの問題があると認識しています。すなわち「きつい・きたない・かっこ悪い・臭い・稼げない・結婚できない」です。このような状況を改善するために「かっこよくて・感動があつて・稼げる農業をつくる」ことを課題として認識し、全国的な取り組みを進めています。

しかし、この取り組みは、各地での先進モデルやプラットフォーム※2)をつくることには成功しましたが、地域内での連携を構築するには至っておりません。

現状認識にあるように、神奈川県内でがんばっている個々のNPO等の取り組みに対して、私たち「農家のこせがれネットワーク」のノウハウや、プラットフォームを提供することにより、ネットワークの基盤となる関係の開拓・拡大を行なう必要があると考えています。

また、地域のNPO等と、行政や農協等との関係性にも考慮して、新しい協働の仕組みや、共助の仕組みなどについても構築していく必要があると考えています。

※1) 地域の農業生産者、NPO、企業、各種関係団体、大学、農業系学校等とします。

※2) 農家のこせがれネットワークの活動プラットフォームです。具体的には以下のとおりです。

- ◆マイファーマー：生活者と農家の新しい関係づくりの場。
- ◆ヒルズマルシェ：毎週土曜日はマルシェで農家さんと生活者の交流の場。
- ◆六本木農園：農業実験レストランでは農家のトークライブや農家が集う「農家サミット」を開催。
- ◆六本木農園FARM：都会で農業を見せる。「農場展示場」として六本木農園横に設置。
- ◆農家の手がわりPJ：地域と都市を結ぶ取り組みや、地方のこせがれ達の活動情報の発信。

2 事業の具体的内容

(24年度の事業の具体的内容について記入してください。)

本事業を推進するために「情報収集と情報交換」「人材交流の場の提供」を柱として「地域の農業関係者のネットワークを構築し、運営を行う中間支援団体の組織化を実現」する事業を行います。

尚、本事業に対して私たちは複数地域で同時に事業化を提案します。本提案書は「足柄上及び西湘地域」に対する提案ですが、「湘南地域」についても同じ内容の提案を行っており、事業の後半においては、下記⑥において広域ネットワークを構築することを提案します。

※平成24年度は⑤の第二回からとなります。

- ① 地域内の行政を訪問ヒアリングし、行政の視点での地域の問題・課題・方向性を把握します。その上で、今後取り組むべき事業や、実践しているNPO等の紹介を受けます。
- ② ヒアリングで紹介を受けたNPO等や、わたくしたちの既知のNPO等に対して、地域情報や活動情報などについてのアンケートを行い、地域課題について情報収集を行います。
- ③ ①②の情報をもとに農業に対する地域課題を把握し類型化を行います。類型ごとの解決策を検討し、解決の方向性の模索や、適切なアドバイス方法の構築を行います。
- ④ 解決の方向性や、アドバイスの内容については、事前に地域内の行政に提示し、行政との内容調整を行います。
- ⑤ その上で、地域毎に仮称）神奈川県農業ネットワーク協議会地域部会（以下地域部会）の立上げを行います。協議会は全3回を予定しており、NPO、企業、各種関係団体、大学、農業系学校等の20団体以上で構成します。協議会の内容は以下のように考えています。

第一回 課題共有ワークショップ：

アンケートやヒアリングをもとに作成した課題マップをたたき台にして、参加者同士が題を発表しあい、課題の共有を図ります。

第二回 必要ツールを考えるワークショップ：

課題を解決するために必要なツールは何かを考えます。規制の緩和か強化か、お金か人か、販売ルートか直売か、情報の発信か収集か。などを考えます。特に、他地域の課題に対して別の地域の解決事例を当てはめるなど、参加者同士の絆の深化を図ります。

第三回 部会を立ち上げるワークショップ：

課題の共有、解決策の検討を経て、具体的にみんなで考える必要性を議論します。その中から、ネットワークや協働コーディネートを行う中間支援組織の必要性と役割を導き出して、部会を緩やかに発足させます。

- ⑥ 交流会「人材育成バーベキュー&マルシェ」を開催します。

机上の話し合いだけでは、組織の絆は生まれにくいと考えます。このため協議会シンポジウムに先駆けて、消費者との交流を図るバーベキュー&マルシェを実際に開催します。具体的な事業を行うことで協働活動を体験し、協議会参加者同士の絆の深化を図ると共に、この事業を通じてイベント開催のノウハウを学ぶなど人材育成を行います。(2地域連携開催)

- ⑦ 仮称）神奈川県農業ネットワーク協議会（以下協議会）の立上げシンポジウムを開催します。

私たちのこれまでの経験や知見から、農業に関する取り組みには、ある程度規模のネットワークが必要と考えています。神奈川県内の農業の将来を展望するにあたって、複数地域を連携した広域ネットワークが必要です。各部会は独立した取り組みを行いますが、例えば、販売や流通や広告などの大規模な取り組みに対しては広域的なネットワークが必要となります。

シンポジウムは、地域毎の取り組みを発表して共有化するとともに、協働コーディネートを行う中間支援組織のあり方を議論します。(2地域連携開催)

3 事業の効果

(この事業により、どのような効果があるのか記入してください。)

自らの活動を協議会・部会という形でネットワーク化し、さらに具体的な事業を行うことによって、地域で活躍するNPO等が、個別で活動しつつも、神奈川県内の農業をとりまく共通の社会的課題の解決の方向性を同じくすることが出来ます。

個別で活動する場合に対して、行政や企業に対する発言力も強くなり、販売・流通・広告などの面で効率性が高まります。

また、将来的には行政の農業政策に対しても一定の方向性を示すことで、行政業務の効率化を高めることもできると思います。

この取り組みは、生業としての農業振興を根幹としていますが、生産物のブランド化やPR活動などによる地域の経済発展の促進、営農を希望する若者たちの育成と雇用の確保、地域の自然環境を使った体験型教育の普及、歴史や文化財の保全活用、地域の自然環境を考える場づくり、など農業に関連する広いテーマに関わる総合的な取り組みを目指します。

4 この事業に関連する団体のこれまでの取り組み及びアピールしたい点

(1) この事業に関連する団体のこれまでの取り組み

(この事業に関連して団体として取り組んできた活動の実績を記入してください。)

関連する主だった事業実績を記載します。

※その他関連事業については、別添の2009年度事業報告書、2010年度事業報告書もご参照ください。

【農家の手がわりプロジェクト】

日付	地域	概要	参加者
10.06.23	群馬県川場村	レストランイベント	80名
10.07.04	群馬県川場村	現地ツアー	42名
10.08.19	群馬県川場村	レストランイベント	80名
10.09.11	島根県雲南市	現地バスツアー	15名
10.09.23	群馬県川場村	現地ツアー	45名
10.10.04	宮城県東鳴子	レストランイベント	70名
10.10.16	宮城県東鳴子	現地ツアー	20名
10.12.08	宮城県東鳴子	レストランイベント	80名
10.12.23	島根県雲南市	六本木農園 Xmas party featuring 雲南	80名

地域のファンをつくることで、都市と地域をつなげていこう！と2010年度の事業で取り組んだプロジェクト。3市町村とレストランイベント・現地ツアーを実施いたしました。

【農家のこせがれBBQ】

日付	協力 農家・こせがれ、地域など	参加者
10.04.18 第1回	[農家]: 貫井香織さん、佐藤智哉さん、志村兄弟 [食材提供]: みずほスタイル、上原隆介さん、松橋拓郎さん、馬場康尋さん、	40名
10.05.16 第2回	[農家]: 本田一さん、志村兄弟、石井さん、菊地功さん、 [食材提供]: 久松達央さん、山内いく子さん、溜池算人さん	30名
10.06.20 第3回	[農家]: 佐藤智哉さん、佐藤智宏さん [食材提供]: 中村さん、貫井香織さん、横山さん	50名
10.07.19 第4回	[食材提供]: JA雲南、神庭さん、木村さん、川本さん、奥出雲葡萄園、槻之屋ヒーリング、吉田ふるさと村、吉廣さん [ゲスト]: 飯垣さん、鶴原さん	40名
10.08.22 第5回	[食材提供&ゲスト]: 高橋希望さん、志野佑介さん、吉井夫妻、菊池功さん	19名
10.10.17 第6回	[食材提供&ゲスト]: 大越正章さん、佐藤春樹さん、中村さん	30名
10.12.26 第7回	[食材提供&ゲスト]: 小坂農園さん、馬場康尋さん	30名

2010年4月より開始。もっと分かりやすく、楽しく、美味しく農業やこせがれネットワークについて知ってもらおうと考えたのが、BBQでした。毎回様々な食材やゲストとの出会いがあります。

(2) この事業に関連する団体のアピールしたい点

(この事業を実施するにあたってアピールしたい団体等の特徴などを記入してください。)

・プラットフォームを持っている

先進モデルやプラットフォームとなりうる事業を有している。

- ◆マイファーマー:生活者と農家の新しい関係づくりの場。
- ◆ヒルズマルシェ:毎週土曜日はマルシェで農家さんと生活者の交流の場。
- ◆六本木農園:農業実験レストランでは農家のトークライブや農家が集う「農家サミット」を開催。
- ◆六本木農園 FARM:都会で農業を見せる。「農場展示場」として六本木農園横に設置。
- ◆農家の手がわりPJ:地域と都市を結ぶ取り組みや、地方のこせがれ達の活動情報の発信。

・各地域ネットワークを保有している

農業プロデューサー、地域プロデューサーと呼ばれるようなキーマンと繋がり、きっかけを作り、それぞれの地域で自走可能な仕組みへと繋げる取り組みを行ってきた。

2009年度に設立発表会を開催した地域を中心に、各地で地域ネットワーク立上げの動きが活発。

◆北海道:REFARM 北海道

アスパラ農家の内山氏が代表世話人。2010年1月に開催した農家のこせがれネットワーク設立発表会 in 北海道をきっかけに設立。北海道の農業は冬の間は農業ができない。その農閑期の間積極的にイベントや勉強会などを開催。

◆秋田:あきたファーマーズカフェ

Farm Garden 黄昏の菊地晃生氏が発起人となって立ち上げる。秋田の異業種交流会で東京でも開催されている「アキタ朝大学」代表の金澤氏の協力を仰ぎ、農家を中心となった異業種交流会を秋田で展開中。

◆宮城:宮城のこせがれネットワーク

白石市の竹鶏ファームのこせがれである志村竜生氏が代表となって活動を開始。地域のNPO法人の協力を仰ぎ、農業者との連携を図りたいと考えている各種関係者の集まれる場を作っている。商品開発のプロジェクトも始動している。

◆神奈川:

農業者及び、飲食店経営者、農産品の加工業者、地域フリーペーパーの編集長など
広く声をかけて神奈川らしい今後のネットワークづくりを模索中。

◆東海・中部:農家のこせがれネットワーク東海・中部

2010年2月に開催した農家のこせがれネットワーク設立発表会 in 東海・中部をきっかけに設立。地域のお祭りにあわせてマルシェの企画、農業者が中心となる異業種交流会の開催、農業者とケーキ屋の協働によるシフォンケーキの開発、海外進出など積極的に活動中。

◆関西:農家のこせがれネットワーク関西

農業者以外が幹事を行っている異色の地域。腰の重い農業者に代わりイベントの企画運営を行なう。今年度は3〜4回程度のイベント開催を予定。関西には農業者と異業種の人が交流できるコミュニティが非常に少ないため、地域では貴重なネットワークに育ちつつある。

上記地域以外でも、様々な農業者、地方自治体、農業ビジネス関係者等との連携が起きている。

2011年度は、新潟、長野、三重、高知、熊本での地域ネットワーク構築を予定している。

・多様なネットワーク

東京を中心とした飲食店経営者、メディア関係者、農業ビジネス関係者、農業や食に関心の高い企業、生活者など多様な分野の方々とネットワークは当団体の大きな力になっている。

5 事業の実施体制

(この事業に関する責任者やスタッフの数などについて記入してください。有資格者などの専門人材についても記入してください。)

(1) 総括責任者・・・・・・・・・・・・・・・・・・宮治勇輔

(2) 個別事業の責任者

アンケート・ヒアリング担当・・・・・・・・・・銀鏡 佳

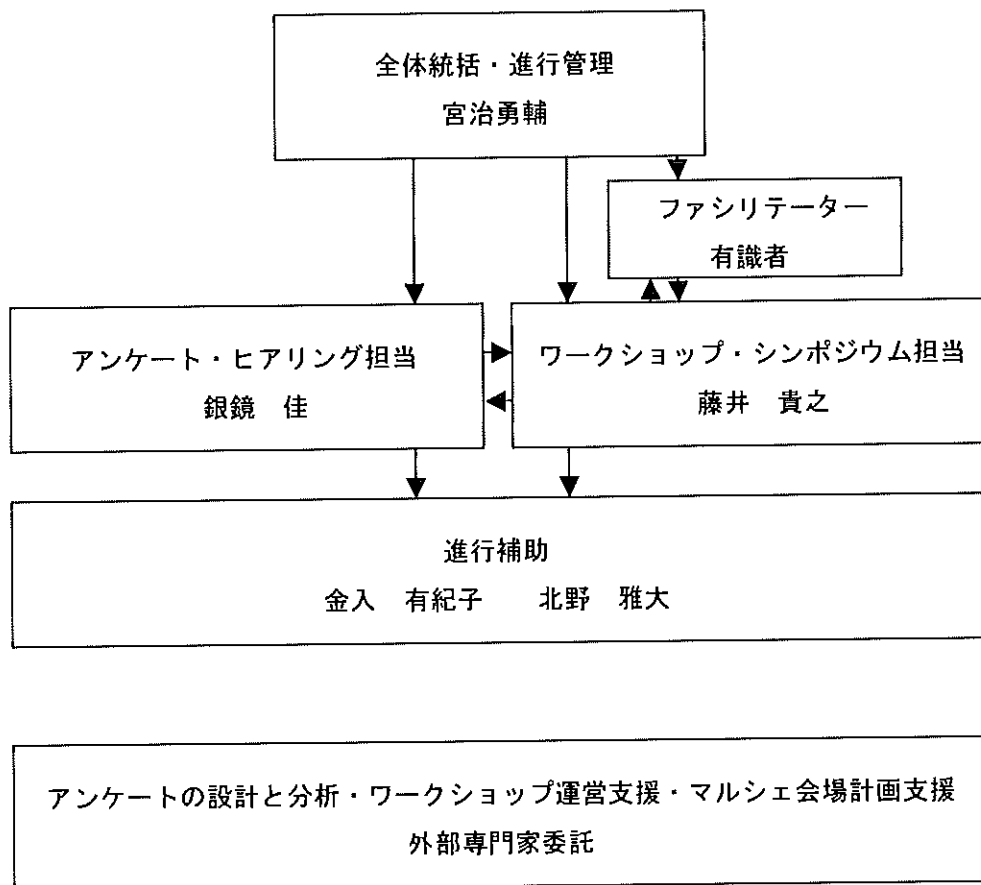
ワークショップ・シンポジウム・人材育成担当・・・藤井 貴之

(3) (1) (2) 以外の従事者

進行補助・・・・・・・・・・・・・・・・・・金入 有紀子

進行補助・・・・・・・・・・・・・・・・・・北野 雅大

(4) 実施体制図



6 事業成果の把握

○成果の把握

(この事業により支援を受けたNPO等の成果を把握するため、どのような指標を設けるか、記入してください。)

本事業における課題認識として、神奈川県内にがんばっている取り組みは多いが、それぞれがつながっておらず、情報収集情報交換と人材交流の場がないことが挙げられる。この点を解決するべく、書く取り組みや情報やノウハウを所有している人とのネットワーク化を図ることを目指している。ネットワーク化の成果をわかりやすくみるために、各地のプレイヤー及び行政担当者とはどれだけ会ってきたのかを指標として掲げる。

もう一点としては、イベント開催時の参加人数を指標として掲げる。イベントに参加する人数が多ければいいというものではないのだが、本事業で企画するイベントはネットワーク化がまず重要な点なので、多くの人の参加を目指す。

○提案者の自己評価

(提案者が行う自己評価について、どのような方法で行うのか記入してください。)

・ 面会した人数

38名以上で○、30名以上37名以下で△、29名以下で×

・ イベント参加人数

20名以上で○、10名以上19名以下で△、9名以下で×

7 事業のスケジュール

<24年度>	事業実施内容
平成24年4月	第一回 課題共有ワークショップのまとめと報告 第二回 必要ツールを考えるワークショップの準備
平成24年5月	第二回 必要ツールを考えるワークショップの実施 課題を解決するために必要なツールは何かを考えます。規制の緩和か強化か、お金か人か、販売ルートか直売か、情報の発信か収集か。などを考えます。特に、他地域の課題に対して別の地域の解決事例を当てはめるなど、参加者同士の絆の深化を図ります。
平成24年6月	第二回 必要ツールを考えるワークショップのまとめと報告 第三回 部会を立ち上げるワークショップの準備 仮称) 神奈川農業ネットワーク協議会(以下協議会)の立上げシンポジウムの準備 有識者への参加依頼・会場の確保 仮称) 人材育成バーベキュー&マルシェ会場確保など
平成24年7月	第三回 部会を立ち上げるワークショップの実施 課題の共有、解決策の検討を経て、具体的にみんなで考える必要性を議論します。ネットワークや協働コーディネートをを行う中間支援組織の必要性和役割を導き出して、部会を緩やかに発足させます。
平成24年8月	第三回 部会を立ち上げるワークショップのまとめと報告 仮称) 神奈川農業ネットワーク協議会(以下協議会)の立上げシンポジウムの準備 仮称) 交流会「人材育成バーベキュー&マルシェ」への参加希望者の募集 参加ちらしの作成と広報活動
平成24年9月	仮称) 神奈川農業ネットワーク協議会(以下協議会)の立上げシンポジウムの準備 交流会「人材育成バーベキュー&マルシェ」の準備
平成24年10月	交流会「人材育成バーベキュー&マルシェ」の開催 協議会参加者が消費者との交流を図るバーベキュー&マルシェを開催します。具体的な事業を協働で開催しネットワークによる活動を体験し、協議会参加者同士の絆の深化を図ります。この事業を通じてイベント開催のノウハウを学ぶなど人材育成を行います。(2地域連携開催)
平成24年11月	仮称) 神奈川農業ネットワーク協議会(以下協議会)の立上げシンポジウムの開催 シンポジウムは、地域毎の取り組みを発表して共有化するとともに、協働コーディネートをを行う中間支援組織のあり方を議論します。 交流会の報告などネットワーク自らの活動に対する発表や意見交換などを行います。
平成24年12月	仮称) 神奈川農業ネットワーク協議会の発足 今後の活動について意見調整 スタッフの選定検討 など 報告書の作成

収支予算書(平成24年度)

科目	金額(円)	備考(積算基礎等)
(収入の部)		
委託費・補助金	2,559,000	2,559,000 円 × 1 式
その他	0	0 円 × 1
収入合計(A)	2,559,000	
(支出の部)		◀印については、他地域と同時開催のため単価を半額としています
1 人件費		
給与	756,000	事務連絡・事業全体の事務担当職員の給与分((9ヶ月) 12,000 円 × 63 人日
	216,000	ワークショップ担当職員の給与分(3人×2回×3日) 準備含む 12,000 円 × 18 人日
	216,000	シンポ・マルシェ担当職員の給与分(3人×2回×3日) 準備含む 12,000 円 × 18 人日
謝金等	40,000	ワークショップのファシリテーター講師謝金(2回) 20,000 円 × 2 人日
謝金等	40,000	シンポのファシリテーター講師謝金(2人×1回)※ 20,000 円 × 2 人日
旅費	16,000	上記交通費 4,000 円 × 4 回
	40,000	行政・NPO等への打合せ訪問(20箇所程度×1人) 2,000 円 × 20 人回
2 物件費		
消耗品費	80,000	アンケート・ワークショップにかかわる事務・文具など 80,000 円 × 1 式
光熱水費		
印刷製本費	8,000	ワークショップ資料(A410ページ 2回) 100 円 × 80 部
印刷製本費	25,000	報告書(A420ページ) 500 円 × 50 部
通信運搬費	32,000	電話代・郵送料など 4,000 円 × 8 ヶ月
使用料	20,000	ワークショップ会場使用料 10,000 円 × 2 回
	50,000	シンポ会場使用料※(他地域と同時開催のため半額) 50,000 円 × 1 回
貸借費		
3 その他		
委託料(広報費)	50,000	各ワークショップ・シンポ・交流会のチラシ作成委託費 50,000 円 × 1 式
委託料(交流会開催支援委託)	270,000	交流会「人材育成バーベキュー&マルシェの開催支援 270,000 円 × 1 式
委託料(分析費)	500,000	アンケートの設計と分析支援・ワークショップ運営支援委託費 500,000 円 × 1 式
委託料(交流会会場計画支援費)	200,000	交流会「人材育成バーベキュー&マルシェ」会場計画支援委託費 200,000 円 × 1 式
支出合計(B)	2,559,000	
収支差額(A)-(B)	0	